

入野小学校 校長室だより

2014.5.1(木) No.4 文責：芝

自慢したいのは一人ひとり

「学校が、先生たちが、一番自慢したいのは何だと思いますか？」

と、4月一番最初の生活朝会で子どもたちに話したことでした。この話を私はどの学校でも年に一度はしてきたと思いますから、これからも何度か話すかもしれません。例えに使っている話も毎回同じような話で、「パン屋さんは美味しいパンが自慢だろう、大工さんは建てた家が自慢だろう、学校だったら…」と続きます。

「学校が、先生たちが、一番自慢したいのはみなさん一人ひとりです。」

もちろん、子どもたちが成長する場は学校だけではありませんから、学校が手柄を独り占めできることではありません。ですが、子どもたちが生き生きと頑張っている姿、成長している姿を学校の看板にしていきたい、そう願って何度も子どもたちに伝えてきました。

私が入野小学校に来て驚いたことの一つに『放課後でも休日でもボールや一輪車が自由に使える』ということがあります。それができる学校は、めったにありません。他の学校の子どもたちが聞くと「いいなあ、うらやましいなあ」と言うでしょう。自慢できる、す



なかよし朝会と垂れ
味のこいのぼり。この後
で張り直し、今は元気に
少し上で泳いでいます。

ばらしいことだと思います。でも、素晴らしいのは「入野小学校」ではなく、それをして
いる「入野小学校の一人ひとり」です。

玄関に「ボールを自由に使える人は、かたづけに責任を持てる人です」という掲示がありますが、こういう「心のものさし」を一人ひとりが意識の中に持っているということなのでしょう。

これからも「片付けに責任を持てる入野小学校・一人・ひとり」という「今」を誇りに思い、大切にしていってほしいと思います。

子どもという希望

こんなお話を聞きました。

1年生が初めての給食当番をした日、帰ってから『給食当番をする時に習った通りの手洗いをして、習った通りにマスクをして』、お家の夕食の配膳を手伝った人がいたそうです。とても可愛くて、素敵なお話ですね。まわりを笑顔にしてくれるし、幸せな気持ちにしてくれます。こんなお話を聞くと、大人も元気になり、前向きな気持ちになれるのではないのでしょうか。

今から十年前、大方高校が開校した時の松原校長先生が、よく「子どもという希望」という言葉を使っていました。

こんな時には、本当にそう思います。

子どもたちの未来を思えば、進学や就職、大人も含めますが環境や年金…、そしていつ来るか分からない地震や津波と、心配なことを数えるとたくさんあるのですが、まずは子どもたちの姿からエネルギーをもらい、前向きに未来を描いて取り組みを考えていきたいと思います。

明日は遠足です。雨は大丈夫そうです。暑すぎるのでは？と、こちらは心配。暑さへの対策と、暑いからといって海には入らない心の対策をしっかりして出発します。